

# 令和7年度 多面的機能支払制度 第三者委員会 議事概要

## 1. 開催概要

日時：令和7年10月15日（水）14:00～15:45

場所：新潟県自治会館 第1研修室

出席者：別紙のとおり

## 2. 議題別の概要

### (1) 多面的機能支払交付金の取組状況について（資料2）

#### ■ 事務手続き・会計検査対応の負担

国の会計検査に耐える書類整備が最大のネック。

「現場の立場から言えば、書類の作成は簡素化も進んできて、そこまで難儀ではないが、国の会計検査に対応できる書類を揃えるのが事務局側の一番のネック。」（坪谷委員）

---

#### ■ AI活用の必要性と限界（高齢者対応）

申請・補助の実務の高度化に対し、AI活用による簡素化が必要との意見が出た。一方で、高齢者主体の現場ではAI前提は非現実的との指摘。

「AIをうまく使って申請書や補助金の助成とかも、AIを使っていなければやっていられない状況になってきている…簡単にAIを使うことでこの申請ができるプロセスがあれば、皆さんもやってみようかと思う。」（五十嵐委員）

---

「70代、80代のおじいちゃんおばあちゃんたちが、何のサポートもなく申請書を作るのは、どんなにAIを使っても難しい。そもそもAIが使えないという現実がある。」

「広域化はすごく重要。事務が得意な人に任せる、まさに餅は餅屋。」（坪谷委員）

#### ■ 広域化の定義・要件、運営体制

広域化により「書類得意人材の巻き込み」「事務局員の雇用」が可能に。

「細かい書類を扱うのが得意な人を事務局に巻き込んでやっていくのが非常に重要…スマホで現場報告を送るだけで、事務局側で位置・情報・時間を含めた報告が整うようにすれば、皆さんは活動に注力できる。」（坪谷委員）

「すごく大事な交付金だと思っていますし、有効に活用して今後もぜひ使っていただきたい。どうやって皆が集まって場を作るかが結構大事になる。」  
(五十嵐委員)

---

## (2) 取組の推進に係る活動状況について (資料 3)

### ■ 優良事例の共有と研修の「実効性」

研修や情報交換を実効性あるものにするため、イメージ (モデル) を持った優良事例の抽出・具体化が必要。

「優良事例の中から、どういう形づくりをしたらいいのかというイメージを持ちながらでなければ、研修会にしても情報交換会にしても絵に描いた餅になってしまう。」 (吉川委員長)

---

「研修や情報交換会は、聞いて終わりでは意味がない。」  
「自分の地域に持ち帰って、どう使えるのか、そこまで見える内容にしてほしい。」  
(吉川委員長)

### ■ 広域化を支える人物像

従来型の「鶴の一声」ではなく、知見を集約するファシリテーション型リーダーが重要。広域化が進むほど役割は増し、基礎自治体のやる気ある職員がキーパーソンとなる。

「次世代リーダーというと、今までのお年寄や偉い人の鶴の一声で何でも決まるようなリーダーではなく、それぞれが持っている知見を最大限に発揮してそれを集約できる力っていう、むしろファシリテーション型のリーダーがすごく重要」 (五十嵐委員)

「広域化が進めば進むほど、リーダーの役割は重要になる。」  
「それをうまくまとめられるのは誰かということ、実はこの広域化において一番大きなキーパーソンは基礎自治体の中のやる気のある職員だったりする。こういった人材を基礎自治体で生まれていくようにしていくことが重要」 (吉川委員長)

### ■ 広域化とチェック機能

広域化を進めるとともにチェック機能の強化も必要。毎年の報告の中でしっかりと確認することで中長期的に組織は強化されていく。

「広域化を進めるにあたり、きちんとやるという活動については、担保できる仕組みが重要。広域化を進めることで本当に農業農村のためになる活動をきちんと担保できるよう、公正性をもった仕組みを作って頂きたい。」 (吉川委員長)

### (3) 多面的機能支払交付金に関する国の動向（資料 4）

#### ■ 中山間地域の維持と獣害・災害対策

中山間地域を維持することが再認識されてきている

「今獣害の問題があるけれど、中山間地域がしっかりしていれば、熊が増えすぎたり人里に下りてきたり、ましてや都市に下りてくることはない…継続的な維持がランニングコストとして一番大事。」（五十嵐委員）

---

「中山間地域の農業は、意義がすごく評価されてきていると思う。」

「中山間地域がきちんと維持されていれば、熊が増えすぎたり、人里や都市部に下りてくることはないと思う。」

「地域を維持すること自体が、安全保障や防災につながり、維持することはコストではなく、必要なランニングコストだと私は思う。」

「やめてしまってから元に戻す方が、はるかにお金がかかる。」（五十嵐委員）

#### ■ 地域の回復力（レジリエンス）

多面的機能支払制度を活用したレジリエンスという考え方

「大きな災害は国に頼るしかないですが、小さなところは自分たちでも対応できる地域を作ることが大事です。」

「技術を共有して、広域で展開すれば、ちょっとしたところは自分たちで立ち直れる地域になると思う。」（五十嵐委員）

---

### (4) 全体を通じた意見と今後の方向性

#### ■ 人が集まり続ける「場」の重要性

地域を維持するためには文化的なものが重要となる

「この交付金は本当に大事だと思う。今後もぜひ有効に活用して欲しい。」

「制度そのもの以上に、どうやって人が集まって、こういうことを続けていく場を作るかが重要。」

「佐渡では、春の大きなお祭りがあるから、地域が何とか維持できていると感じる。祭りのような文化的なものがないと、地域の景観やつながりは維持できない部分がある。」

「そうした文化的な要素も含めて評価し、地域の魅力としてブランド化していく視点が必要だ。」（五十嵐委員）